

THE LATEST DOSHISHA



法人部

●同志社ヨセフ会墓地を同志社が管理

このたび、学校法人同志社が「裏会」(ヨセフ会)の墓地を管理することになった。ヨセフ会は創立者新島襄の精神とそのよってたつキリストの命を伝えることを目的に法学部のクリスチャン学生を中心に組織されたグループ。一九二〇年の同会発会式には海老名正総長も出席した。聖書研究会としての活動とともに実践のグループとしての側面も持ち合わせたヨセフ会の会員

は、天に召された後は新島先生のお側近くに帰ることを願い、一九三二年に若王子にヨセフ会の墓地を確保。今日に至るまで個人名義で管理されてきた。しかし、現在、会員の多くが八十歳を超える高齢になり、個人的に管理を続けることが困難になってきたため、ヨセフ会からの要請により十月三十一日から同志社が管理することとなった。

●第十九回東京新島講座

十月三日に第十九回東京新島講座公開講演会が有楽町朝日スクエアにおいて開催された。東京新島講座は例年十月に行われ、今回は落合仁司大学経済学部教授と尾崎寛女子大学学芸学部教授がそれぞれ「オーソドックスとは何か」、「人生八十年時代のシエクスピア」の演題で講演し、講演の記録は一月に出版された。

●第二十三回新島講座

十月五日大学尋真館、十月六日大学神学館礼拝堂において第二十三回新島講座が行われた。講師はオックスフォード大学教授であり日産日本研究所所長のジェームス・アーサー・ストックウイン氏である。それぞれ「集中か分岐か——一九九〇年代におけ

る日本とイギリス政治の比較——」政党の現状——日本とヨーロッパの考察」と題して行われ、現代日本政治をイギリスやヨーロッパと比較して、広義の政治勢力の集中と分岐、政党の意義、政治システムの改革について講演された。現代日本政治の研究で著名な同氏は毎年のように来日している知日派の政治学者であり、今回の講演は日本語で行われた。講演の記録は追って出版の予定である。

●第二十四回新島講座

トリア大学教授で前現象学会長のエルンスト・ヴォルフガング・オルト氏をお迎えして、十月二十日大学恵道館、十月二十二日大学神学館礼拝堂において第二十四回新島講座が行われた。第一回講演は「文化と時間」と題して行われ、ヨーロッパの文化概念の起源を探究し、文化とはそもそも「魂の耕作」であり、同時にわたしたちの時間意識によって形態化されたものであることを明らかにしようとした。第二回講演は「近代の文化概念——自然哲学と認識論——」と題して行われ、近代の文化概念について十九世紀後半に研究された文化哲学における「自然」と「文化」の概念から変形を経た文

化哲学に関する考察を明らかにされた。講演の記録は追って出版の予定である。

●一九九八年秋の叙勲・褒章

同志社大学名誉教授橋本静信氏が勲三等旭日中綬章を受章され、十一月十日国立劇場大劇場で伝達式が行われた。また、法人同志社監事中西淑夫氏が黄綬褒章を受章され、十一月十一日皇居で伝達式が行われた。

大学

●アメリカ研究所設立四十周年

アメリカに発達した学術、文学、芸術など、広く文化一般についての研究とその普及を目的として設立されたアメリカ研究所は一九九八年度で四十周年を迎え、東京大学アメリカ研究資料センターと並ぶ、日本におけるアメリカ研究の一大拠点に成長した。

四十周年にあたる九八年度、研究所ではアメリカ研究の歴史を振り返るとともにその意義を再確認し、来世紀のアメリカ研究への展望を拓く講演会やシンポジウムを開催。六月には本間長世成城学園学園長（東

京大学名誉教授）をお迎えして、「アメリカの意味―二十一世紀に向けて」と題する公開講演会を開催。十月七日には、プリンストン大学高等研究所のジョーン・スコット教授を招いて、「女であることのパラドックス―フェミニズムの歴史を読み直す」をテーマにした公開講演会を行ったほか、同月九日、栄光館で、駐日米国大使トーマス・S・フォリー氏による「アメリカ政治と開かれた政府」と題した講演会を開催した。なお、講演会に先立ち、十五期三十年間にわたって下院議員を務め、九七年から現職に就かれた大使の、長年にわたる日米交流への貢献と、類まれな学識に対して、同志社大学名誉文化博士の学位が贈呈された。

（グラビアに関連記事）

●田辺別館増築・改修および多目的ホール改修工事

昨年二月に着工した田辺キャンパスの施設拡充工事が完了し、九月三十日に竣工式が行われた。これらの工事は、田辺キャンパスの学生数が増えて施設が不足気味になってきたことや、学生の課外活動の場が田辺へと移りつつあることなどが背景にある。この工事により田辺別館には天井高が

七・一mの空間を持つラウンジが新設されたほか、演劇室・合唱室、大きささまざまな大きさの会議室五室と和室が増設された。

また、多目的ホールでは従来のロビーをラウンジとして拡張したほか、雨の日も利用しやすいように隣接する食堂棟と渡り廊下で結ばれ、憩いの場を求める学生で賑わっている。

●メデイテーション・アワールの開設

心静かなひとときとして祈りの時間と空間をもってもらおうと、十月八日から同志社礼拝堂を開放し、メデイテーション・アワー（瞑想の時間）を試みに設けた。月曜日から金曜日の十三時から十三時四十分までの四十分間、毎日オルガンの演奏が流れる。学内教職員・学生に限らず、一般の方も自由に入場可。

●「新島襄に送られた手紙」展

「書簡の人」といわれるほど数多くの手紙を書いた新島襄。一方、新島が受け取った手紙の差出人の多くは教え子をはじめとする同志社関係者やキリスト教関係者、大学設立資金運動協力者で、現存するだけで和文九百九十通、英文四百八十通に上る。今回はそのうち和文、英文書簡約百六十通を

展示。当時の唯一の通信手段であった手紙を通して新島の人間関係やそのつながりがかがえ、興味深い。

・展示場所／Neesima Room（今出川校地・ハリス理化学館二階）

・展示期間／三月二十日（土）まで

・開室時間／九時三十分～十七時（月～金）、九時三十分～十二時（土）、十時～十七時（日）

●文学部三年次編入学試験／一九九九年 度から専修学校専門課程修了者に門 戸を開放

文学部教授会では、一九九九年度の第三年次編入学試験から、専修学校専門課程修了者（修了見込み者を含む）で、修業年限二年以上、総授業時間千七百時間以上の者に、受験の道を開くことを決定した。広く受験の機会を設け、明確な目標と旺盛な学習意欲を持つ方々に門戸を開放することにより、大学の活性化が期待される。一九九九年度編入学試験には英文学科一人、文化学科（哲学及倫理学専攻・心理学専攻・国文学専攻）四人、社会学科（社会学専攻・社会福祉学専攻）五人が入学を志願した。

●「同志社熊本講座」開催

十一月三日、熊本テルサ・ホールにおいて同志社大学・女子大学の共催により「同志社熊本講座」が開催された。これは両大学の教育研究活動の成果を関西地域にとどまらず全国規模で広く社会に公開しようとするもので、東京講座に続き、熊本での講座が実現した。講座のメインテーマは「歴史に学ぶもの」。八田英二大学長、大橋寿美子女子大学長の挨拶の後、龍谷 寿女子大学教授による「平安京とその文化―都と諸国―」、森浩一大学教授による「考古学からみた日本文化―熊本の特色をさぐる―」と題した講義が各々九十分にわたって行われた。講座開催に向けて校友会熊本県支部、同窓会熊本支部の協力が得られたこともあり、両大学の卒業生をはじめ、高校生から高齢の一般市民まで約四百人に及ぶ受講者を得た。

●AO入試の結果

十一月十九日、一九九九年度アドミッシヨンス オフィス方式による入学者選抜（AO入試）の結果、七十六人の合格者を発表した。実施二年目を迎え、昨年度の二百九十人を大幅に上回る三百三十五人の志願

者があった。応募は全国にわたっており、海外の高校出身者の出願も昨年の十人を上回る十七人となっているほか、募集人数を増やした商学部とともに、工学部全体で志願者が四十八人（昨年二十人）と大幅に増加した。

最終合格者は七十六人（昨年は五十人）で、現役六十八人、既卒八人となっている。最高倍率は社会学科社会学専攻の十六・五倍で、平均倍率は四・四倍であった。また、今回は商業高校出身者が七人、工業高校出身者が四人、それぞれ商学部と工学部に合格した。昨年同様、様々な活動歴や才能、ユニークな個性を持った人達が多数合格しており、入学後の活躍が期待される。

なお、七十六人中七十人が入学手続を完了した。

●「新島遺品庫」資料を電子化

社史資料室では創立百二十五周年記念事業の一環として新島遺品庫収蔵資料の電子化作業を十一月から開始した。新島遺品庫には新島の書簡、日記、ノート類、説教・演説草稿、「外国人雇用願い」などの校務文書、その他の遺品を中心に新島家関係文書、創設期の同志社関係文書などが収蔵されて

いる。これらの資料のうち約五千九百点を三年かけて電子化（コマ数にして約三万三千）していく予定。電子化にあたっては、正倉院収蔵史料などの電子化の高度な技術や実績が生かされており、きわめて高品質で繊細な画像データが期待される。電子化されたデータはインターネットなどを通して身近に見ることができるようになる。

●私立大学ジョイント・サテライト事業（衛星通信活用プログラム）の選定を受ける

文部省より「私学ジョイント・サテライト事業（衛星通信活用プログラム）」の選定を受けた。これは、全国の大学など、研究機関の間で衛星通信を利用して授業などを相互に交換できるシステムで、メディア教育開発センターの衛星通信ネットワークを利用するもの。メディア教育開発センターは、高等教育におけるマルチメディアの利用を促進するための中核的機関として設置された国立の共同利用機関で、データベース事業、メディア教材開発事業などを行っており、衛星通信大学間ネットワーク構築事業もその一つ。現在、国立大学を中心に私学を含めて約百機関がこのシステムに参

加している。

本学では機器を明徳館一番教室に設置する予定で、複数大学間あるいは複数のキャンパス間でリアルタイムな授業交換、合同のシンポジウム・研究会が可能となる。

●「トータル・ヒューマンケア・サポート研究機構」が学術フロンティア推進拠点の選定を受ける

一九九七年度から始められた文部省の「学術フロンティア推進事業」に昨年新たに人文、社会科学の研究領域への支援が追加され、文学研究科における心理学、社会福祉学の研究領域と、保健体育研究室におけるスポーツ科学の学際領域から組織した「トータル・ヒューマンケア・サポート研究機構」がその選定を受けた。この研究機構は「少子高齢化社会における“こころ”とからだの生涯健康教育に関する多角的研究」をテーマとして取り組むプロジェクトで、とくに少子高齢化や、青少年に関する社会問題を多角的な観点から捉え、具体的な改善策を見出し提案しようというもの。一九九八年度から二〇〇二年度までの五年間にわたって研究が行われる。

「学術フロンティア推進事業」は社会的養

成が強い重要課題について将来の研究発展が期待される卓越した研究組織を支援し、内外の研究機関との共同研究を推進しようというもので、私立大学においては研究基盤の強化が期待される。

なお、当事業が開始された昨年度には工学研究科が「学術フロンティア推進拠点」として選定を受けている。

女子大学

●シェイクスピア公演「Romeo and Juliet（ロミオとジュリエット）」

学芸学部英語英文学科三年・四年次の二年間にわたってシェイクスピアの作品を学び、英語で上演する。企画から、演出、照明、キャスト、パンフレット作成等に至るまですべて学生の手によって行われる。第四十八回目を迎える今年度は十一月六日（金）、七日（土）の二日間にわたり新島記念講堂にて「Romeo and Juliet（ロミオとジュリエット）」を上演。各方面から高い評価を得て公演は成功を収めた。

●ミュージカル公演

“Me and My Girl”

短期大学部英米語科の授業「英米語特殊研究(英語音声身体表現研究)」で、英語の発声や発音と身振りや視線の取り方などの身体表現法を学ぶとともに、異文化への理解を深め、その集大成として、学生たちがミュージカルを上演する。全員がキャストとして登場するだけでなく、AD、照明、音楽等のスタッフとして一人一役も二役もこなす。十一回目となる今年度は十二月十七日(木)新島記念講堂にて、“Me and My Girl”を上演した。

●日本語日本文学科公開講座

今回で十回目となる公開講座を十月二十一日(水)新島記念講堂にて開催した。講師に現代日本語学の分野よりフィアラ・カレル氏(福井県立大学教授)を招き、「プラグ学派のFSP論から見た日本語の情報構造」というテーマで盛会のうちに終了した。

●音楽学科公開レッスン

“一台のピアノからオーケストラの響きを引き出し、歌詞の意味を強める才能は、絶頂期のジェラルド・ムーアに勝るとも劣らない”とも評されるロビン・ボーマン氏

(ピアニスト)を講師に招き、「伴奏ピアニストのためのフランス歌曲公開レッスン」を開催した。開催日は十一月四日(水)場所は頌啓館。

●音楽学科定期演奏会

第二十八回定期演奏会を十二月六日(日)京都コンサートホール(大ホール)にて開催した。出演は音楽学科合唱団と管弦楽団で、小島千絵子の「小ミサ」他、リストの交響詩「前奏曲」、ドボルザークの交響曲第9番ホ短調「新世界」が演奏された。

●短期大学部公開講演会

十二月二日(水)新島記念講堂にて、講師にフェミニストカウンセラーの井上摩耶子氏を迎えて開催した。演題は「自己尊重して生きるー対人関係における女性の悩みー」。氏は、一九九五年九月にスタッフ十六人で、女性による女性のための「ウイメンズカウンセリング京都」を開設。個人カウンセリングの他に「自分を好きになる講座」を開いたり、摂食障害のサポートを行ったりしている。

●「同志社女学校と朝鮮」展

同志社女子専門学校は一九一〇年代以来、朝鮮から著名な作家金末峰を始め多く

の留学生を迎えた。また淑明女学校創立にかかわった淵澤能恵は同志社女学校出身であり、女専教授柳宗悦・兼子夫妻は朝鮮と深い関係をもった。一九九八年からソウル女子大学と本学の相互交流が始められたのを機会に標記の展示を企画した。

- ・展示場所/頌美館(今出川) 史料室
- ・展示期間/七月三十日(金)まで
- ・展示時間/十時~十六時(月~金)

高等学校

●メルボルン・ウエスリー高校生来校

九月二十一日(月)

生徒九人(女子六人・男子三人) 付添クレア・クーパー先生、十月十日まで滞在

●岩倉祭

十月一日(木)~五日(月)

●入試説明会

十月十六日(金)

同志社中学校以外の中学校対象

●中間試験

十月二十一日(木)~二十六日(月)

●入試説明会

十月二十四日(木)

同志社中学校以外の保護者対象

●人権学習

十月二十九日(木)

午後 次のプログラムで実施。生徒は事

後感想文提出。

一年 ビデオ「お会いしませんか？」

二年 映画「プラス！」

三年 講演

「南京大虐殺についての体験談」

東 史郎(旧軍人)

「在日を生きる」 林 美佳(卒業生)

「日本における子どもの権利条約の

浸透状況」

岩佐嘉彦(弁護士)

「女性として働きながら生きること」

宮地光子(弁護士)

●進学説明会

同志社中学校三年生保護者対象

十月三十一日(土)

●宗教週間

講師・テーマ

十一月二日(月)～七日(土)

「いのちの恵み」大澤 宣(紫野教会牧師)
「出会うということ」

土肥謙一郎(城陽高校教諭)

「最高の愛に活かされて」野村祐之(青山
学院大学・早稲田大学講師)

「ネギを植えた人」藤原史朗(市立尼崎高
校教諭・西宮聖光教会副牧師)

●保護者面談

●教職員修養会

十一月六日(金)
十一月十四日(土)
「これからの同志社教育・礼拝をめぐる

ー同志社高校の場合ー」をテーマとし、山崎
彰校長の発題で、関西セミナーハウスで実施。

●期末試験

十二月一日(火)～五日(土)

●オーベンロー高校プラスバンド部員来校

十月六日(火)

デンマーク南部にあるオーベンロー高校
のプラスバンド部員が来校し、全校生を前
に演奏を行った。初めての日本での演奏旅
行の一環で、部員生徒三十五人は同志社高
校の生徒や教職員宅にホームステイし、国
際親善と友好を深めた。

●韓国の呉養鎬教授による特別授業

十一月五日(木)

韓国のインチョン(仁川)大学校教授で、
来日中の呉養鎬(オ・ヤンホ)京大客員教
授による特別授業(三年生 キリスト教学
選択クラス)があった。韓国文学界の第一
線で活躍しておられる文学者でもある教授
は、日本の植民地時代に活躍した韓国の国
民的詩人である鄭芝溶(チョン・ジョン)
をとりあげ、その人物と作品を紹介された。
鄭芝溶は一九二〇年代に同志社大学に留
学。代表作「鴨川」は、現在でも韓国の歌
謡曲によく引用されているとの説明があ

り、生徒一同は多大の感銘を受けた。

以上の二件はいずれも京都新聞で写真付
きで報じられた。

香里中高

●第三回夏期カナダ語学研修

本年はバンクーバーで五十五人が、レス
ブリッジで二十八人が研修。七月三十一日
午後関西国際空港発、シアトル国際空港到
着後、バスでバンクーバーとレスブリッジ
に分かれる。八月十七日までホームステイ。
十八日バンクーバー組はビクトリアを、レ
スブリッジ組はコロンビア大水原を見学。
二十日シアトルで合流、二十一日帰国。

●文化祭

九月二十三日(水)

今年のテーマは「RED」。これは古代の
錬金術では錬金の工程を色の変化によって
黒、白、黄、赤の四段階に分け、赤が完成
した姿である、としたことによる。前日は
台風襲来で臨時休校となったため展示の開
始は遅れたが、講堂での催し物などは予定
通り進行。祝日で女子中高生の来場が多く

女学校になった感があつた。

●中学修学旅行

十月二十三日(金)～二十六日(月)

二十三日新島学園にて礼拝後、安中市内見学、塩沢泊。二十四日新潟經由で会津若松着、日新館見学後、五色沼散策。夜は星空観察。二十五日、鶴ヶ岡城、山本寛馬・八重生誕地、飯盛山を訪問。二十六日東京經由で帰京。

●高校修学旅行

十月二十七日(火)・十一月一日(日)

人数が多いためABCD組を第一班、EFG組を第二班にする。二十七日夜関西国際空港発。第一班のコースを記すと、二十七日アリゾナ記念館、ビショップ博物館を見学。二十八日午前中ハワイ大学の学生とキャンパスツアー。午後ポリネシア文化センターを見学。二十九日パンチボウルの丘とヌアヌ・パリ展望台を訪問、午後コ・オリナビーチで水泳。三十日は班別自主研修、夜ディナークルーズ。三十一日ホノルル空港発、帰国。初めての海外旅行のため学校では万全の対策を講じていたが、事故なく終了。全行程、英語によるガイドであったが、帰国後のアンケート調査で生徒の理解

度は六〇％。

●大阪府学生科学賞審査

十一月六日(金)

高校の部で本校生物部野間口真裕君ほか九人による「クマゼミ・アブラゼミの研究」が大阪市長賞を受賞した。研究内容は「都会にクマゼミが増えた理由について一万八千個余りの抜け殻を調べて細かく分析。クマゼミは都会の温暖化や乾燥した環境を好むことを確かめた」ことであった。大阪府代表として中央審査に出品されることが決定した。

●PTA講演会

十一月十三日(金)

本年度は全日本ラグビー監督平尾誠二氏を講師に招いた。平尾氏は「何事も高い目標を定め、それに向かって自主的に行動することが成功の基礎である」ことを中学以来のラグビー選手としての体験を通して分かりやすく述べられた。当日は父母や生徒のみならず、学校周辺の方々も多数参加され、熱心に耳を傾けておられた。

女子中高

●修養会

・高校修養会 九月五日(土)・六日(日)

兵庫県三田市にある、関西学院千刈キャンプ場に於いて行われた。テーマは「心の中の宝島」、テーマソングを「夢の中」とし、上賀茂伝道所牧師でミュージシャンでもある、兼松豊先生を講師として迎え、その発題を元に、自分を見つめ、仲間と向き合い、それぞれの夢を語り合った。

・中学修養会

九月十二日(土)・十三日(日)

兵庫県三田市にある、関西学院千刈キャンプ場に於いて行われた。テーマは「出会いって何? 素敵なもの?!」。講師には、日本基督教団京都教区巡回牧師の榎本てる子先生をお迎えした。それぞれが経験した「出会い」を持ち寄り、新しい出会いをここでも経験し、今まで気がつかなかった宝物を見いだした。

●体育祭

九月二十九日(火)

当初の予定が悪天候により一日延期になり、二十九日に開催された。それほど暑くもなく、快適な状態の中、白熱した思いで、覇を競い合った。

●文化祭

十月一日(木)～三日(土)

「Nouvelle Vague」をテー

マとして、学園最大の行事である文化祭が開催された。合唱コンクールで熱唱し、中学一年生は「土鈴」を制作して、通路に飾り、中学二・三年生はクラス対抗の展示コンクール、高校生は「貼り絵」の作品コンクール、その他、クラブの発表、有志による展示、演奏等、様々な分野で活発に活動した。

●中学写生会

十月二十三日(金)

天候が危ぶまれたため、当初植物園で実施する予定を変更し、学校にて、「靴」をテーマに描いた。

●秋季遠足

十月二十七日(火)

春季遠足がクラスの親睦を深めることが目的であったのに対して、今回は、歩くことを主眼にしている。

●収穫感謝礼拝

十一月十三日(金)～十四日(土)

十三日は、ハンドベルと聖歌隊の合唱による賛美礼拝を持ち、翌十四日午後からは、持ちよった収穫物と募金を持って施設を訪問し、それぞれの場所であら交流を持った。

●ページェント

十二月十七日(木)

午前の部は、生徒・教職員がクリスマス礼拝として守り、午後の部は、水上隣保館

の人々をお招きし、一般の人とともに守った。

国際中高

●始業式

九月一日(火)

七月入学生三十六人(中学十三人、高校二十三人)が加わって、二期の始業式を行った。

●中学体育祭

九月二十三日(水)

前日の雨で開催がややぶれたものの最後まで実施することができた。全学年が白と黒に分かれて種目を競い合った。生徒会役員や、体育委員が大活躍で、てきぱきと指示を与えていたのが印象的であった。当日は祝日ということもあって多くの保護者参観もあり、盛況であった。

高校体育祭は台風と大雨警報のために中止になった。

●文化祭

九月二十五日(金)～二十七日(日)

中高とも、一、二年生はクラス展示、三年生は演劇発表という例年通りの形での文化祭であった。コミュニケーションコンプレックスを利用した催し物もいくつかあ

り、それぞれに好評であった。

●体験学習

十月八日(木)～九日(金)

中学三年生九十二人が富山県氷見・島尾海岸にて地曳網、キャンプファイヤーを体験。大敷網、魚市場を見学した。

●社会科見学

十月二十二日(木)

中学 滋賀県日野町 ブルメの丘
高一 京都市 東山歴史散策
高二 奈良県明日香村 サイクリング
高三 神戸市 神戸散策

●同和教育

十月二十六日(月)～三十一日(土)

今年は被差別部落の問題について学習。毎朝の礼拝を使つての学習に加えて二十九日は中高それぞれ映画を鑑賞し、感想を語り合つた。

中学 「友子よ、晴れない霧はない」

高校 「人間の街」

●中学クラス懇談会

十一月十日(火)

授業参観および担任とのクラス懇談。

●教育研究発表会

十一月十三日(金)・十四日(土)

本校創立以来の帰国生徒教育を総括し、今後の教育のあり方を考えていくことを目的として教育研究発表会を開催した。

テーマ 「グローバル化時代の教育を考える」

帰国生徒教育の現場からの提言

【第一日目】

・記念講演 「父性原理・母性原理」

国際日本文化センター所長 河合隼雄氏

・基調報告 校長 坂田直三

・分科会 本校教員

【第二日目】

・研究授業

両日とも全国から多数の参加者があり、

活発な意見の交換が見られた。

中学校

●体育祭

十月六日(火)

九月二十二日が台風で休校となり延期

於 本校グラウンド

●学園祭

九月二十八日(月)～十月一日(木)

於 本校および大学会館

各学年行事、生徒会行事、クラブ展覧会

および青森県の風間浦中学校との交流。

●パソコン講習会

十月からL・A・Nが稼動し、十月二十四日

から四週間にわたり全学年英語の授業二時間を利用し、「パソコン講習会」を実施。全

員にI・Dが貸与され、十一月十日より図書室等でのノートパソコンの個人貸出(十台)が始まった。

●全校バレーボール大会

十月二十九日(木) 於 本校グラウンド

●宗教人権週間

十一月二日(月)～七日(土)

「ネギを植えた人」 藤原史朗(市立尼崎高校教諭)

「音・音楽・讃美」

森道興(日本聾語学校音楽教師)

「偉くないけど、選んで下さる」

井関恭夫(日本バプテスト病院)

チャブレン

●人権行事

十一月七日(土)

○一・二年生全員

映画鑑賞

「地球交響曲ガイヤシンフォニー第三番」

○三年生(五コース(前の映画鑑賞含む)から選択)

見学

見学

「琵琶湖博物館」

「立命館国際平和ミュージアム・陪審法廷」

見学と散策

「リパティおおさか(大阪人権博物館)」

見学と散策

「人権ゆかりの地をたずねて」

●読書週間

十一月九日(月)～十四日(土)

●收穫感謝礼拝と施設訪問

十一月十四日(土)

「耕す」

広澤和人(神戸女学院中高部長)

放課後、果物をもって、生徒会役員・ホ

ザナとハンドベル部員が白川学園を訪問・交流した。

●創立記念礼拝

十一月二十一日(土)

奨励・八田英二(同志社大学学長)

「学生時代に知るべき三つのもの」

於 大学明德館21番教室

●能・狂言鑑賞

十二月十日(木)

三年生(全員参加)

国語授業の一環として実施。

於 河村能楽堂

●クリスマス礼拝

十二月十九日(土)

奨励・後藤正敏(平安教会牧師)

「クリスマスの贈りもの」

於 大学明德館21番教室

●スキーキャンプ

十二月二十三日(水)～二十七日(日)

三年生(自由参加)

四泊五日で、長野県志賀高原一の瀬スキ

1 場へ。三百人参加。

幼稚園

●一九九九年、新入園児の募集開始

九月一日(火)

例年九月一日から入園案内、募集要項を配布し、次年度入園園児の募集を始める。

●二期開始

九月四日(金)

学期最初の日は始業の礼拝を行っている。

●九月お誕生日会

九月十一日(金)

お誕生日の日は午前中に教員たちが園児に寸劇、音楽などのアトラクションを見せ、その月に誕生日を迎えた園児と母親、教員が昼食を共にし、ケーキにローソクをつけてお祝いをする。

●一九九九年度入園希望者の親子面接

十月一日(木)、二日(金)

三年保育四十四人、二年保育九人の入園を決めた。

●十月お誕生日会

十月二十八日(水)

●運動会

十月二十九日(木)

例年と同じように女子大学のグラウンド

でダンス、歌などを含む約二十種目の競技を行った。

●芋掘り遠足

十一月四日(水)

山科勸修寺方面へ。

●園外保育

十一月十二日(木)

弁当を持って紅葉の御所へ。ゲームなど。

●親子親睦会

十一月十六日(月)

左京区高野のスターレーンでボーリングを楽しんだあと、ホリデー・インで食事をしながら手品と風船作りを觀賞した。

●十一月お誕生日会

十一月十八日(水)

●収穫感謝礼拝

十一月二十一日(土)

例年十一月第三土曜日には園児たちが野菜や果物を持参し、太陽の光、土、雨などで私たちの食べ物ができることを学び、感謝の礼拝を行う。

●年長組、校祖墓参

十一月二十八日(土)

例年同志社の創立記念日の前後に若王子の新島襄の墓前で保護者と一緒に礼拝を行う。保護者には新島襄の簡単な伝記と同志社が創られたいきさつについて話をしていく。

●シチューの日

十二月一日(火)

収穫感謝祭の日に持ち寄った野菜を使って園児たちも手伝ってシチューを作り味わ

った。

●クリスマス会食

十二月八日(火)

●十二月お誕生日会

十二月九日(水)

●クリスマス礼拝、祝会

十二月十七日(木)

保護者出席のもので、礼拝の後全園児でイエスの誕生を祝うページェントを行った。

●二期終業式

十二月十八日(金)

●三学期始業礼拝

一月九日(土)

●一月お誕生日会

一月十三日(水)